

区 分	専門科目－社会的ネットワーク科目	担当教員	谷口 重徳			
授業科目	社会学理論 A					
英 訳	Sociological Theory A					
配当年次	2 年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の概要】 社会学の誕生以来、蓄積されてきた社会学理論について、その基礎概念を学ぶ。授業は講義形式で行う。						
【授業の目的】 この授業によって社会学理論を学んだ受講生が、基本的な社会学の視点や発想を身につけ、社会学の面白さに触れることを目的としています。						
【到達目標】 社会学理論の中から行為論、集団論、近代化論などの基本概念について学習し、応用可能な知識を習得する。						
【準備学習(予習・復習)】 ノート・配付プリント、紹介した参考書等を確認し、授業内容を理解しておくこと。						
【授業計画】 第 1 回 ガイダンス～社会学理論の視点 第 2 回 秩序問題と三者関係 第 3 回 集団について 第 4 回 日常世界の構成 第 5 回 機能分化する社会 第 6 回 行為について 第 7 回 近代人の登場 第 8 回 近代社会とアノミー 第 9 回 近代社会と時空間の抽象化 第 10 回 近代社会における合理化の概念 第 11 回 リスクと社会 第 12 回 消費社会論 第 13 回 「私化」の進行 第 14 回 現代社会と再帰性 第 15 回 まとめ～社会学と理論						
【教科書】 特に指定しない。						
【参考書】 授業中に適宜、紹介する、						
【成績評価基準】 期末テスト(70%程度)、授業中の小レポート(30%程度)などをもとに、授業内容の理解度および応用力という観点から評価する。						
【メッセージ】 社会学理論は、たんに暗記するだけではなく、自分自身で考え、理解し、使ってみること(さらに使いながら修正すること)で、その面白さや奥深さに気づくことができる。日頃から授業で学んだ内容について誰かと論じ合うことが望ましい。						

区 分	専門科目－社会的ネットワーク科目	担当教員	谷口 重徳			
授業科目	社会学理論 B					
英 訳	Sociological Theory B					
配当年次	2 年次 後期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の概要】 社会学の誕生以来、蓄積されてきた社会学理論について、その基礎概念を学ぶ。授業は講義形式で行う。						
【授業の目的】 この授業によって社会学理論を学んだ受講生が、基本的な社会学の視点や発想を身につけ、社会学の面白さに触れることを目的としています。						
【到達目標】 社会学理論の中から社会システム論の基本概念について学習し、応用可能な知識を習得する。						
【準備学習(予習・復習)】 ノート・配付プリント、紹介した参考書等を確認し、授業内容を理解しておくこと。						
【授業計画】 第 1 回 ガイダンス～社会学理論の意義 第 2 回 社会的ネットワークとソーシャルキャピタル 第 3 回 社会・集団の類型 第 4 回 社会システム論の視点 (1) 第 5 回 社会システム論の視点 (2) 第 6 回 アイデンティティとモラトリアム 第 7 回 産業社会における社会意識 第 8 回 文化産業論の視点 第 9 回 社会問題の捉え方 (1) 第 10 回 社会問題の捉え方 (2) 第 11 回 日本社会の分析理論 (1) 第 12 回 日本社会の分析理論 (2) 第 13 回 日本社会の分析理論 (3) 第 14 回 現代社会と社会学理論 第 15 回 まとめ～社会学理論を学ぶこと						
【教科書】 特に指定しない。						
【参考書】 授業中に適宜、紹介する、						
【成績評価基準】 期末テスト(70%程度)、授業中の小レポート(30%程度)などをもとに、授業内容の理解度および応用力という観点から評価する。						
【メッセージ】 社会学理論は、たんに暗記するだけではなく、自分自身で考え、理解し、使ってみること(さらに使いながら修正すること)で、その面白さや奥深さに気づくことができる。日頃から授業で学んだ内容について誰かと論じ合うことが望ましい。						

区 分	専門科目－社会的ネットワーク科目	担当教員	沢田善太郎			
授業科目	社会統計学 I					
英 訳	Social Statistics I					
配当年次	2 年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の概要】 確率論を基礎に統計的推論の基本を説明する。従来は通年4単位だったが、新学科設立時に前・後期2単位に分割した。						
【授業の目的】 社会分析に必要な統計学の基本を身につける。						
【到達目標】 大まかには、社会調査士の資格獲得のために必要とされる程度の統計学の基本を身につける。						
【準備学習(予習・復習)】 知識を積みかさねていく授業です。しかも、多くの人が苦手な数式の出でくる授業です。途中で授業を休んだり、授業中に他のことに気を取られていたりすると、何の話かさっぱり分からなくなります						
【授業計画】 第 1 回 プロローグ 第 2 回 代表値 第 3 回 度数分布 第 4 回 分散と標準偏差 第 5 回 2 変数の独立と相関 第 6 回 ここまでのまとめ 第 7 回 順列と組合せ 第 8 回 確率 第 9 回 確率分布 第 10 回 2 項検定 第 11 回 仮説検定の論理 第 12 回 正規分布 第 13 回 2 項分布の正規近似 第 14 回 ここまでのまとめ 第 15 回 普遍推定値						
【教科書】 沢田善太郎 統計学入門 こちらから配布						
【参考書】 とくに指定せず						
【成績評価基準】 毎回の受講状況 (20) 期末試験 (80)						
【メッセージ】						

区 分	専門科目－社会的ネットワーク科目	担当教員	沢田善太郎			
授業科目	社会統計学 II					
英 訳	Social Statistics II					
配当年次	2 年次 後期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の概要】 確率論を基礎に統計的推論の基本を説明する。従来は通年4単位だったが、新学科設立時に前・後期2単位に分割した。						
【授業の目的】 社会分析に必要な統計学の基本を身につける。						
【到達目標】 大まかに、社会調査士に資格獲得のために必要とされる程度の統計学の知識を身につける。						
【準備学習(予習・復習)】 毎回、私が講義するより練習問題を解く時間のほうが多くなるでしょうが、頑張ってください						
【授業計画】 第 1 回 標本平均の分布 第 2 回 区間推定 第 3 回 母数の検定 第 4 回 ここまでのまとめ 第 5 回 t 分布による区間推定 第 6 回 平均の差の検定 第 7 回 ここまでのまとめ 第 8 回 離散型カイ 2 乗分布 第 9 回 クロス表の独立性の検定 (1) 第 10 回 クロス表の独立性の検定 (2) 第 11 回 クロス表分析の他の方法 第 12 回 因果推論 第 13 回 ここまでのまとめ 第 14 回 分散分析 第 15 回 回帰分析						
【教科書】 沢田善太郎 統計学入門 こちらから配布						
【参考書】 特になし						
【成績評価基準】 毎回の受講状況 (20) 期末試験 (80)						
【メッセージ】						

区 分	専門科目—社会的ネットワーク科目	担当教員	大塚 厚二			
授業科目	ソーシャルメディア概論					
英 訳	Survey of Social Media					
配当年次	4年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】						
事例を中心にプリントを配布して教える。授業の内容は学内 Google Appsに載せ、同じ Google Appsを使ったディスカッショングループに意見を書いてもらう形で授業を進める。レポートも授業サイトに投稿の形で載せてもらう。						
【授業の目的】						
ソーシャルメディアを使う場面が増えているが、日常の眩みや、連絡ツールに終わっているのが大半である。有効に使われるソーシャルメディアの事例を紹介すると共に、トラブルからの逃れる方法について述べる。						
【到達目標】						
ソーシャルメディアを使って、地域の情報を収集し、活性化のアイデアを語れるようにする。						
【準備学習(予習・復習)】						
大学のGoogle Appsのサイトに情報を載せ、ディスカッショングループにソーシャルメディアに関するものを運営するので、授業外でも見て、積極的な情報提供をしてほしい						
【授業計画】						
第 1回 オリエンテーションと導入						
第 2回 ソーシャルメディアを分類する						
第 3回 ソーシャルメディアの歴史						
第 4回 電子掲示板とブログでの事例研究						
第 5回 ソーシャル・ネットワーク・サービス(SNS)とは						
第 6回 ミニブログ (Twitter など)						
第 7回 メッセージサービス (LINE など)						
第 8回 匿名か実名か、情報共有について考える						
第 9回 中間まとめ、受講者が利用するソーシャルメディアについてレポート						
第10回 ソーシャルメディアのマーケティングでの利用例						
第11回 ソーシャルメディアの企業利用例						
第12回 情報通信白書に見るソーシャルメディアの動向						
第13回 ソーシャルメディアと地域社会(1)						
第14回 ソーシャルメディアと地域社会(2)						
第15回 ソーシャルメディアと地域社会のまとめレポート						
【教科書】						
授業でプリントを配布する。						
【参考書】						
教科書に在る事例のリンクは授業支援サイトに載せる。						
【成績評価基準】						
1回目のレポート(50%)、2回目のレポート(50%)						
【メッセージ】						
これからは、携帯電話などの携帯端末を使ったソーシャルメディアが大きく伸びることは間違いない。問題は、どのように付き合っていくかであり、実社会でどのように利用していくかだと思う。						

区 分	専門科目－社会的ネットワーク科目	担当教員	池本 良教			
授業科目	地域連携論A					
英 訳	Regional Collaboration A					
配当年次	3年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 地域社会から、各種集団・組織・団体、行政、企業、学校などにわたって展開してきた、人と組織の関係性について、社会貢献・地域連携の歴史と理論として、社会発展との関連で理解することを通じて、その問題を把握し課題を展望する。授業は講義・教材(写真やビデオなど)の視聴と討論で構成する。						
【授業の目的】 地域・企業・行政・研究教育機関の各領域と領域間で展開してきた社会貢献・地域連携の歴史と理論について、基本的な枠組みを理解する。						
【到達目標】 社会貢献・地域連携の歴史と理論の基本的な枠組みをすることを通じて、社会貢献・地域連携の主体となるための理論を身につける。						
【準備学習(予習・復習)】 日常的に、社会貢献・地域連携に関するテレビのドキュメンタリーやニュースなどの番組を見たり、新聞や雑誌などを読み、配付資料に基づいて授業内容を把握し、授業を経て学修内容をまとめる。						
【授業計画】 第 1回：共同・協同・協働 第 2回：社会発展とネットワーク－Social Capital の意義 第 3回：組合・学生運動・組織と連帯 第 4回：産官学共同・企業メセナ・フィランソピー・CSR 第 5回：セトルメント・患者組織と患者団体・公害運動と環境活動 第 6回：地域医療・地域福祉 第 7回：国際連盟と国際連合・国際協力 第 8回：国際交流と国際化 第 9回：まちづくりとむらおこし 第 10回：都市農村交流・地域間交流・国際交流 第 11回：主体と文化の多様性 第 12回：ネットワークと共生 第 13回：多面的機能と多面的活動 第 14回：大学や研究・教育機関の連携組織 第 15回：社会貢献と地域連携						
【教科書】 使用しないが、資料を適宜提供する。						
【参考書】 適宜紹介する。						
【成績評価基準】 レポート(40%)と期末試験(60%)で評価する。						
【メッセージ】 ボランティア活動や社会人になってからの企業活動にも関わる考え方なので、ぜひ学んでもらいたい。						

区 分	専門科目－社会的ネットワーク科目	担当教員	池本 良教			
授業科目	地域連携論B					
英 訳	Regional Collaboration B					
配当年次	3年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 人や組織が地域社会の中で、経済や社会、教育や福祉、自然環境・社会環境、まちづくり、地域開発などの地域の問題・課題にどのように取り組んでいるのかについて、社会貢献・地域連携という観点でその実態と問題・課題・展望を説明する。授業は講義・教材(写真やビデオなど)の視聴と討論で構成する。						
【授業の目的】 各種・各地域の地域連携の事例研究(ケース・スタディ)などを通じて、地域社会の問題や課題への取り組みの論理を理解し、今後の方向を展望する。						
【到達目標】 社会貢献・地域連携の実態と問題・課題・展望について、地域・企業・行政・研究教育機関の各領域と領域間で展開してきた実態の事例研究を通じて、社会貢献・地域連携の主体となるための力量を身につける。						
【準備学習(予習・復習)】 日常的に、社会貢献・地域連携に関するテレビのドキュメンタリーやニュースなどの番組を見たり、新聞や雑誌などを読み、配付資料に基づいて授業内容を把握し、授業を経て学修内容をまとめる。						
【授業計画】 第 1回：市民社会の連携① 第 2回：市民社会の連携② 第 3回：産業社会・組織と連携① 第 4回：産業社会・組織と連携② 第 5回：地域医療・地域福祉・公害問題① 第 6回：地域医療・地域福祉・公害問題② 第 7回：国際社会と連携① 第 8回：国際社会と連携② 第 9回：まちづくりと地域交流① 第 10回：まちづくりと地域交流② 第 11回：多様性と共生の地域連携① 第 12回：多様性と共生の地域連携② 第 13回：大学・教育機関と地域連携① 第 14回：大学・教育機関と地域連携② 第 15回：地域連携の担い手						
【教科書】 使用しないが、資料を適宜提供する。						
【参考書】 適宜紹介する。						
【成績評価基準】 レポート(40%)と期末試験(60%)で評価する。						
【メッセージ】 ボランティア活動や社会人になってからの企業活動にも関わる事例研究なので、ぜひ学んでもらいたい。						

区 分	専門科目－社会的ネットワーク科目	担当教員	高木 尚光			
授業科目	情報社会と倫理					
英 訳	Information Society and Ethics					
配当年次	3年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
<p>【授業の概要】 関連分野のトピックス、情報教育学研究会などの資料などを参考にして講義を進める。トピックスの重要度によっては授業計画の一部を変更することがある。講義をベースとするが、いくつかの課題については、個々に学修、調査などで内容を深め、レポートにまとめる。</p>						
<p>【授業の目的】 豊かな情報社会を育て上げるために、情報社会の持つ問題点をより深く認識する必要がある。特に、情報社会に積極的に関わる者の倫理観は健全な情報化社会形成のために不可欠である。本講義を通して情報社会に積極的に関わる者として身に付けておかなければならない倫理観を修得する。</p>						
<p>【到達目標】 情報社会に関わる者として身に付けておかなければならない基礎知識を修得し、さらにその基礎知識による応用力を身につけさせる。</p>						
<p>【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第 1回 講義の進め方と学修目標の提示</p> <p>第 2回 情報社会とインターネット (1) インターネットと情報の特性</p> <p>第 3回 情報社会とインターネット (2) メディア、インターネットとリテラシー</p> <p>第 4回 個人情報 (1) 個人情報とプライバシー</p> <p>第 5回 個人情報 (2) 個人情報の保護</p> <p>第 6回 知的財産権 (1) 知的財産権の保護と侵害</p> <p>第 7回 知的財産権 (2) 著作物の利用と関連する権利</p> <p>第 8回 インターネットと生活</p> <p>第 9回 インターネットとビジネス</p> <p>第10回 インターネットと教育</p> <p>第11回 インターネットとコミュニケーション</p> <p>第12回 情報社会とセキュリティ</p> <p>第13回 情報社会と犯罪</p> <p>第14回 情報社会の目標</p> <p>第15回 まとめ</p>						
<p>【教科書】 適宜、資料を配付する。</p>						
<p>【参考書】 ・情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ編著、インターネットの光と影、北大路書房 ・劉継生、木村富美子、はじめて学ぶ情報社会、昭和堂</p>						
<p>【成績評価基準】 期末試験(70%)、授業中の課題(30%)で評価する。</p>						
<p>【メッセージ】 教育職員免許「高等学校教諭(一種・情報)」対応科目</p>						

区 分	専門科目－社会的ネットワーク科目	担当教員	高木 尚光			
授業科目	情報社会論					
英 訳	Information Society Theory					
配当年次	3年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
<p>【授業の概要】 情報社会のいわゆる「影」にあたる関連する事例に基づいて、コミュニケーションにおける知的財産権の保護・コンピュータ犯罪の回避・セキュリティの意識・個人情報の保護などの重要性を認識する形態で授業を進める。また、サイバー犯罪など新たな犯罪の発生に伴い、新たに成立した法律や改正された従来の法律についても概説する。</p>						
<p>【授業の目的】 現在の情報社会においてインターネットに代表される情報通信技術の基本的概念の重要性を理解することと、生活の中での情報通信技術によるコミュニケーションにおいて、知的財産権の保護・コンピュータ犯罪の回避・セキュリティの意識・個人情報の保護の重要性を理解する。</p>						
<p>【到達目標】 情報収集・コミュニケーションツールとしてのインターネットの重要性を学習し、問題点も理解する。</p>						
<p>【準備学習(予習・復習)】 前回の授業内容をよく理解しておくこと、不明点は質問すること。</p>						
<p>【授業計画】</p> <p>第 1回 情報の概念 第 2回 情報の活用と発信 第 3回 情報の管理とセキュリティ 第 4回 情報とメディア 第 5回 情報通信ネットワーク (1) インターネットの構造 第 6回 情報通信ネットワーク (2) ネットワーク上の情報共有 第 7回 情報のデジタル表現 第 8回 中間まとめ 第 9回 セキュリティを守る技術 第 10回 情報伝達の多様化と社会の変化 (1) コミュニケーションの変遷 第 11回 情報伝達の多様化と社会の変化 (2) 情報伝達の多様化 第 12回 情報社会における知的財産権 第 13回 情報社会がもたらす影響 第 14回 情報社会における個人の責任 第 15回 まとめ</p>						
<p>【教科書】 適宜、資料を配付する。</p>						
<p>【参考書】 ・劉継生、木村富美子、はじめて学ぶ情報社会、昭和堂 ・岡田正、高橋参吉、藤原正敏 編、ネットワーク社会における情報の活用と技術 改訂版</p>						
<p>【成績評価基準】 期末試験(70%)、授業中の課題(30%)で評価する。</p>						
<p>【メッセージ】 教育職員免許「高等学校教諭(一種・情報)」対応科目</p>						

区 分	専門科目－社会的ネットワーク科目	担当教員	竹中 健			
授業科目	ボランティアとNPOの社会学					
英 訳	Sociology of Volunteer and NPO					
配当年次	1年次 通年	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の概要】						
テキストを用いて、まず現代日本社会におけるボランティア組織の位置づけを理解する。次に、各自が任意のボランティア組織に主体的にアプローチする。そこで30時間のボランティア活動を実際に経験をし、その体験をクラスで発表する。理論と経験の二つの方向から現代社会におけるボランティアの意味を考える。						
【授業の目的】						
1 現代日本社会におけるボランティアの概念と実態の乖離を理解する 2 ボランティア体験を通して、働くことの楽しさやその意味にふれる						
【到達目標】						
1 ボランティア動員の現実とその問題点を理解する 2 30時間のボランティアを経験する 3 ボランティア体験をクラスのなかで発表する						
【準備学習(予習・復習)】						
(第2回～第6回まで) 毎回、授業の前までにテキストの各章をあらかじめ読んでおくこと。 (第7回～第14回まで) ボランティア組織との接触状況を毎回報告できるよう、報告書をまとめておくこと (第27回～第29回まで) プレゼンテーションのための資料を準備し、最低3回以上コメントを受け修正すること						
【授業計画】						
第 1回 オリエンテーション						
第 2回 『ボランティアへのまなざし』第1章 ボランティア行為者像を知る						
第 3回 『ボランティアへのまなざし』第2章 ボランティア組織の展開可能性を考える						
第 4回 『ボランティアへのまなざし』第3章 ボランティア動員を考える						
第 5回 『ボランティアへのまなざし』第4章 ボランティア組織が自立するための条件を考える						
第 6回 『ボランティアへのまなざし』第5章 日本におけるボランティア組織の未来を予測する						
第 7回 フリースクールのボランティア (現場で活躍する外部講師の話聞く)						
第 8回 福祉施設におけるボランティア (現場で活躍する外部講師の話聞く)						
第 9回 ボランティア実習準備 1 選定準備						
第 10回 ボランティア実習準備 2 アポイントメントのとりかた						
第 11回 ボランティア実習準備 3 スケジュールの立てかた						
第 12回 ボランティア実習準備 4 研修 A						
第 13回 ボランティア実習準備 5 研修 B						
第 14回 最終ボランティア計画書の作成と提出						
第 15回 日程最終確認表の作成と提出						
第 16回～第 27回 各自でボランティアを体験する						
第 28回～第 30回 発表会						
【教科書】						
『ボランティアへのまなざし』竹中健 晃洋書房 2013年						
【参考書】						
講義のなかで適宜紹介する						
【成績評価基準】						
① 講義内で実施するミニテストの結果 (20%) + ② ボランティア実習計画の作成と実行 (50%) + ③ 発表会でのプレゼンテーション (自己の発表内容と他者へのコメント内容などを総合的に判断する) (30%)						
【メッセージ】						
毎回の講義までに、その日に扱う章のテキストを熟読しておくこと。ボランティアを楽しみましょう。						

区 分	専門科目－社会的ネットワーク科目	担当教員	沢田善太郎 他			
授業科目	フィールドワーク体験					
英 訳	The Experience of Field Work					
配当年次	1 年次 前期	必選別	選択	単位数	2 単位	
【授業の概要】 夏休みの集中講義。現社の教員が日頃取り組んでいるフィールドワークの領域を実地に体験してもらう。						
【授業の目的】 日程は日程の関係から8月19日と大幅に飛んで8月29日～9月2日、まで、鯉城会館（広島市中区大手町 1-5-3）を拠点に実施。						
【到達目標】 興味のあるフィールドで自分の問題意識を活かす方法を身につける。						
【準備学習(予習・復習)】 フィールドワークで知ったことを自分なりに整理する。						
【授業計画】						
		授業テーマ	訪問・調査先	指導教員		
第 1回	8月19日(金)	アニメの祭典	広島アニメーションフェスティバル	谷口		
第 2回	8月29日(火)	日本(広島)に住む外国人	外国人が経営するお店を訪問する	崔		
第 3回	8月30日(水)	ボランティア活動の体験	ボランティア団体を訪問する	竹中		
	8月31日(木)	お休み				
第 4回	9月 1日(木)	企業経営のしくみ	企業の現場を見学する	竹元		
第 5回	9月 2日(金)	福祉社会を目指して	広島福祉施設を見学する	藤本		
授業開始は10時40分、会場(鯉城会館)には10時には教員が来ています。						
【教科書】 特にない。						
【参考書】 毎日の指導教員が指示するだろう。						
【成績評価基準】 ・毎回の授業でのフィールドワークへの熱意(お会いした人に対して、礼儀正しく、しかも熱心に質問ができるかなどが評価の目安になるだろう) ・全部の授業が終わった後、自分がいちばん興味を持ったことをレポートにしよう。 ・これらを総合して、成績評価をする。						
【メッセージ】						

区 分	専門科目－社会的ネットワーク科目	担当教員	谷口 重徳			
授業科目	社会と情報					
英 訳	ICT and life					
配当年次	1年次	後期	必選別	必修	単位数	2単位
【授業の概要】 社会と情報との係わりについて認識を深め、情報化社会に期待される専門家の役割について見識を深める。その過程においては、視聴覚教材を多用して関連分野のトピックスを多く提示する。トピックスの重要度によって授業計画の一部を変更することがある。その間、いくつかの課題について研究し、結果をレポートにまとめる。						
【授業の目的】 今日、社会にあふれる情報の実態、機能、特徴について多面的に学修し、情報の活用についての専門的学修を進めて行くための見識を深め、基盤を育成する。						
【到達目標】 社会と情報との係わりについての実情、機能、特徴について学び、応用可能な知識を習得する。						
【準備学習(予習・復習)】 ノートや配布資料を整理し、前回の授業内容をよく理解しておくこと。不明点をチェックしておくこと。						
【授業計画】 第 1回 講義の進め方と学習目標の提示 第 2回 メディアと男女像 第 3回 課題研究：インターネットの男女像 第 4回 メディアと「物語」の世界 第 5回 課題研究：時代とメディア 第 6回 メディアが伝える「真実」 (1) メディアの発展とメディアが伝える真実 第 7回 メディアが伝える「真実」 (2) 虚報、誤報、客観報道論 第 8回 課題研究：メディアの光と陰 第 9回 情報源としてのインターネット 第 10回 課題研究：情報検索 第 11回 情報ベンチャー 第 12回 課題研究：ベンチャービジネス 第 13回 情報化と現代社会 第 14回 課題研究：情報化社会の未来と自分の未来 第 15回 まとめ						
【教科書】 特に定めない。担当者が配布資料を作成し、適宜配付する。						
【参考書】 白石 義郎 編『メディアと情報が変わる現代社会－メディアと情報化の過去、現在、未来』九州大学出版会						
【成績評価基準】 課題探求レポートの総得点（100％）から判断する。						
【メッセージ】 学内メールアドレスで電子メールが利用できること。日常生活でのICT活用について積極的に研究して下さい。						

区 分	専門科目－社会的ネットワーク科目	担当教員	池本 良教			
授業科目	社会調査論A					
英 訳	Social Research Methods A					
配当年次	2年次	前期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 社会調査、取材の意義と諸類型に関する基本的事項を講義する。						
【授業の目的】 人間の社会的存在の形態や社会集団・組織による社会現象など社会の実態を一連の作業によって把握する社会調査と取材の基本的事項について、概要と歴史、方法とともに発想・図解法などの思考法の概要を講義する。						
【到達目標】 人間の社会的存在の形態や社会集団・組織による社会現象など社会の実態は社会調査・取材という一連の作業によって把握できる。社会調査・取材の概要と歴史、発想・図解法などの思考法と技法の概要について理解する。						
【準備学習(予習・復習)】 配付資料に基づいて授業内容を把握し、授業を経て学修内容をまとめる。						
【授業計画】 第 1回：社会調査とは 第 2回：社会調査の目的 第 3回：社会調査の手法①統計調査と事例調査 第 4回：社会調査の手法②質的調査と量的調査 第 5回：社会調査の手法③調査票調査とフィールド調査 第 6回：社会調査の歴史 第 7回：調査倫理 第 8回：社会調査の体系 第 9回：調査課題の設定と問題意識 第10回：仮説と結論 第11回：発想法 第12回：作図法 第13回：調査の企画と設計 第14回：資料やデータの収集 第15回：まとめ						
【教科書】 使用しないが、資料を適宜提供する。						
【参考書】 適宜紹介する。						
【成績評価基準】 各回のレポート(40%)と期末試験(60%)で評価する。						
【メッセージ】 「調査」だけでなく「取材」などの同様の手法についても方法論を修得してもらいたい。 社会調査士資格取得の標準カリキュラム「【A】社会調査の基本的事項に関する科目」の認定科目(必修)である。						

区 分	専門科目－社会的ネットワーク科目	担当教員	池本 良教			
授業科目	社会調査論B					
英 訳	Social Research Methods B					
配当年次	2年次	後期	必選別	選択	単位数	2単位
【授業の概要】 社会調査や取材によって資料やデータを収集し、分析しうる形にまで整理していくための、具体的な調査・取材設計と実施方法について講義する。						
【授業の目的】 人間の社会的存在の形態や社会集団・組織による社会現象など社会の実態を一連の作業によって把握する社会調査・取材の具体的方法と実際について講義する。						
【到達目標】 社会現象や社会的存在を理解・把握し問題・課題を解決するための手法としての社会調査・取材の具体的な設計や実施方法を修得する。						
【準備学習(予習・復習)】 配付資料に基づいて授業内容を把握し、授業を経て学修内容をまとめる。						
【授業計画】 第 1回：社会調査の体系と方法 第 2回：社会調査の企画 第 3回：社会調査の設計 第 4回：文献・資料調査 第 5回：観察調査と質問調査 第 6回：調査票 第 7回：個人情報と調査倫理 第 8回：実査 第 9回：データの入力と集計・分析 第 10回：調査結果のとりまとめと公表 第 11回：社会調査と携帯端末 第 12回：調査事例①世論調査・意識調査・意向調査 第 13回：調査事例②地域調査 第 14回：調査事例③階層調査 第 15回：まとめ						
【教科書】 使用しないが、資料を適宜提供する。						
【参考書】 適宜紹介する。						
【成績評価基準】 レポート(40%)と期末試験(60%)で評価する。						
【メッセージ】 「調査」だけでなく「取材」などの同様の手法についても方法論を修得してもらいたい。 社会調査士資格取得の標準カリキュラム「【B】 調査設計と実施方法に関する科目」の認定科目(必修)である。						